



赤十字ありがとう通信^{NO.9}

みなさまのおかげで、私たちの活動が成り立っています。
赤十字の様々な取り組み等をご紹介します。

日本赤十字社 広島県支部
Japanese Red Cross Society

発行日／平成31年4月末日 発行／日本赤十字社 広島県支部 〒730-0052 広島県広島市中区千田町2丁目5-64

「平成30年7月豪雨災害」活動報告

昨年の豪雨災害において、日本赤十字社広島県支部は発災直後から8月末日までの2ヵ月間にわたり、様々な活動を行いました。今回は実際の活動内容をそれぞれ、ご紹介します。



医療救護班

発災後直ちに被災現場へ赴き、救護所の設置、被災現場や避難所での診療を行います。



広島県支部からの第1班は、発災当時、坂町立小屋浦小学校の避難所までの道路が寸断されており、陸路での派遣が困難だったため、地域の協力を得て、船で向かいました。救護所の電気・水道などのライフラインは当時まだ復旧しておらず、限られた医療資源での活動となりましたが、少しでも被災された方のお力になれるよう、7月8日から9日までの間、全力で活動しました。

ハンドケアをしながら、被災された方のお話を伺うなどの心理的支援を行いました。

また、被災者と同様に避難所のスタッフも被災による疲弊とストレスを抱えるため、「支援者への支援」も実施しました。

そのほか、呉市立天応小学校では社会的支援として教員へお話しする場を設け、被災した児童から発せられるサインや反応を臨床心理士が説明し、児童への接し方や対応のアドバイスをを行いました。



こころのケア班

被災地域を巡回し、災害がもたらす心への負担を軽減するための活動を行います。



災害対策本部 医療コーディネートチーム

日赤災害医療コーディネーターである医師やその他スタッフで構成され、災害医療の専門的な見地から、様々な調整を行います。



広島県支部や広島県庁などで、関係機関との救護班の派遣や活動期間の調整、避難所での医療ニーズの分析などを行い、7月10日から8月3日まで、組織力を活かし災害救護活動の中核を担いました。

また、最終日には医療面での被災地域の自立に向けて、医療救護班の活動内容や避難所の医療ニーズを地元の医師会へ引継ぎました。

「平成30年7月豪雨災害」活動報告



赤十字ボランティア

広島県支部では、各種赤十字奉仕団に所属するボランティアの皆様も活動しています。このたびの災害でも61名が活動し、救援物資の輸送や、道路状況の調査を行うなど様々なサポートをしてもらいました。



救援物資の輸送



安全な道路状況の確認



救援物資の搬出

皆様からお寄せいただく活動資金は、このようなところでも活用されています。

広島県支部では、赤十字事業に共感された多くの方から、活動資金という形でご支援を頂いております。これらの活動資金によって、このたびの豪雨災害においても様々な活動の実施や救援物資の配布を行うことができました。また、活動資金は災害救護活動のほか、平時の救護資器材の整備や訓練、赤十字理念の普及活動などに活用されています。安定した事業展開のためにも、継続したご支援の程よろしくお願いいたします。



救援物資・救護資器材

1,000円のご支援で
毛布が1枚届けられます。



2,000円のご支援で
安眠セットがひとつ
届けられます。



3,500円のご支援で
緊急セットがひとつ
届けられます。



断水地域(呉市川尻町)へ 無料の洗濯サービスを実施



呉市の要請を受け、国際医療救援の場で使用されている緊急対応用の水・衛生ユニット※機材の一部を使い、洗濯設備を構築しました。（※川の水などをくみあげ、原水を運搬、ろ過して浄水をつくる装置です。）



平成30年7月豪雨災害における救援物資配布地域

(県内 平成30年7月7日～8月31日)

毛 布	1,336枚	竹原市	福山市	府中市	庄原市	安芸高田市	江田島市
		20	750	6	450	100	10
安眠セット	691個	東区	南区	安佐北区	安芸区	呉市	坂町
		12	19	91	197	120	252
緊急セット	440個	竹原市	尾道市	福山市	府中市	安芸高田市	江田島市
		18	18	336	2	60	6

お問い合わせ

●お問い合わせは、広島県支部組織振興課まで



日本赤十字社 広島県支部
Japanese Red Cross Society

〒730-0052 広島県広島市中区千田町2丁目5-64

TEL 082-545-5011

FAX 082-240-2741